

総合的な学習の時間

1 これからの総合的な学習の時間について

- 各学校では、国が示す目標を踏まえ、具体的な目標及び内容を定め、創意工夫を生かした特色ある学習活動を行う。

<国が示す総合的な学習の時間の目標>

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。
※「小学校学習指導要領」より

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着やこれらを活用する学習活動は、教科で行うことを前提に、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な学習となるよう充実を図る。
- 学校間の取組状況の違いを改善するために、育てようとする資質や能力及び態度については、例えば、「学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関すること」などの視点を踏まえる。
- 学校段階間の取組の重複を改善するために、各学校段階における児童生徒の発達に応じた適切な学習活動を展開する。
- 体験活動（例：小学校における自然体験活動や中学校の職場体験活動、高等学校の就業体験活動等）を問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付け、体験活動によって児童生徒の学習を一層充実したものとする。

2 各学校において取組が求められること

- 移行期間中の標準授業時数と実際の実践を踏まえ、全面実施を見通して全体計画及び年間指導計画を見直す。

<見直すポイント>

右に示した①～⑦の要素が全体計画または年間指導計画に示されていること。

※①②③は必須の要件

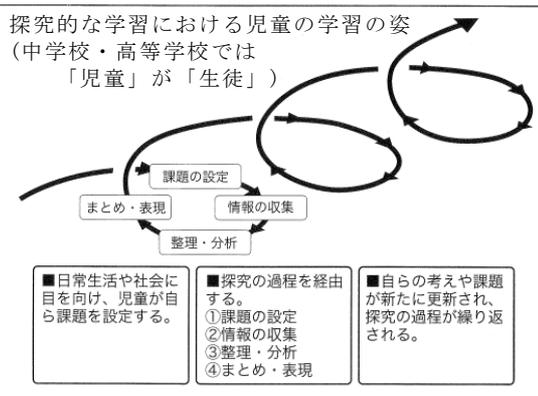
- ① 各学校において定める目標
(国が示した目標を踏まえていること)
- ② 育てようとする資質や能力及び態度
- ③ 内容
- ④ 学習活動
- ⑤ 指導方法
- ⑥ 指導体制
- ⑦ 学習の評価

※ その他、各学校が必要と考える事項を示すことができます。

- 学習活動が探究的な学習として充実したものになるよう、年間指導計画及び単元計画を見直し、授業改善に取り組む。

- 各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて評価の観点・規準を設定する。

- 総合的な学習の時間の趣旨の実現に向けて、校内推進体制の整備や教職員の研修を行う。



3 総合的な学習の時間における言語活動の充実

問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにする。

小学校 総合的な学習の時間の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 情報を整理・分析し、問題点を明確にして、表現を工夫改善することができる。

思考力、判断力、表現力の育成

- 学年 第6学年
- 単元名 ふるさと総領 探検隊！ -総領の「まち自慢」を紹介しよう-
- 単元の目標 総領町の歴史や文化とそこに生きる人々とのかかわりについての探究的な学習を通して、事象を多面的に追究する方法を身に付け、そこにある問題を主体的に見出し、友だちと協力して解決するとともに、地域への愛着を高め、自己の生き方を考えることができるようにする。

□ 単元の計画 (全53時間)

	学習活動		学習活動
第一次 10時間	課題を見付けよう ・ゲストティーチャー (GT) から「観光マップ」作成の依頼 ・「総領」についてのウェビングマップの作成 ・地域の文化財見学 ・グループ課題設定	課題の設定	「観光マップ」を作ろうⅡ ・「観光マップ」の内容の見直し ・現地再取材, 再インタビュー ・調べた内容を整理, 表現方法の検討 ・「観光マップ」の完成 ・「観光マップ」の完成 《価値付け (他者評価)》(GTの評価)
第二次 17時間	「観光マップ」を作ろうⅠ ・資料調べ, 現地見学, インタビュー ・調べた内容を整理, 表現方法の検討 ・「観光マップ」下書きをもとに中間発表会 ・下書きの評価《効果的な失敗経験》 (GTの評価)	情報の収集 整理・分析 まとめ・表現	まとめ ・「総領」についてのウェビングマップの作成 ・学習活動全体を通しての振り返り 《価値付け (自己評価)》

- 本時の目標 「観光マップ」の内容や表現の仕方について、改善点を考えることができる。
- 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 [観点] (評価方法)
1 本時の学習課題をとらえる。 友だちやGTのアドバイスを聞いて、「観光マップ」の内容と表現の仕方を見直そう。		相手意識や目的意識を明確にさせる。
2 グループごとに「観光マップ」を紹介する。 他のグループの「観光マップ」の紹介を聞いて、内容や表現の仕方について評価する。	・(発表する側) 情報を整理しながら説明させる。 ・(聞く側) 初めて総領を訪れる人や様々な年齢の人が「観光マップ」を見ることを確認した上で、総領のよさがより伝わるマップにするためにはどうすればいいか考えながら聞かせ、よい点、問題点、アドバイスなどを付箋に書かせる。	友だちやGTのアドバイスを参考にして、「観光マップ」の内容や表現の仕方の改善点を考えている。 [整理・分析に関する思考・判断・表現] (行動観察・発言・振り返りカードの記述内容)
3 GTから各グループに対してアドバイスをもらう。	・GTに、改善点が明確になるようにアドバイスをもらう。気づきを付箋に書かせる。	
4 グループで「観光マップ」の内容を見直し、改善点について話し合う。	・学習活動の2, 3の付箋を表により整理させ、内容や表現の仕方の改善点について、話し合わせる。 ・改善点について、発表させる。	
5 振り返りをする。	・「アドバイスを参考にして『観光マップ』の内容を見直すことができたか。」について振り返りをさせる。	

言語活動の充実

指導のポイント

ゲストティーチャー (GT) の評価により、表現を充実させる

- GTには、児童では気付かない「観光マップ」の改善点を指摘してもらいましょう。それにより、児童は、今後どのように改善していけばよいのか、見通しがもてるようになります。

教師

GTに任せきり。

工夫

GTの効果的な活用。

もっと地域の人の思いを聞き取って、それを入れたマップにしてください。
小学生でなければ出せないようなアイデアや工夫のあるマップにしてください。



ゲストティーチャー

GTとの事前打ち合わせでは…

マップについて指摘してほしい点を具体的に打ち合わせておきます。より内容が充実したマップになるよう、もっと調べてみようという意欲を喚起し探究的な活動につなげていきたい指導者の意図を伝え、協力を依頼します。

児童

インターネットや聞き取りで調べた内容で満足。

工夫

「文化財を守っている地域の人の思いを聞こう!」「自分たちで計画して再取材に行こう!」等、マップをよりよくするための探究的な活動が再スタート。

情報を整理・分析させる

- 「観光マップ」を評価する視点として「内容」と「表現の仕方」を示し、それぞれについて「よい点」と「問題点」を付箋紙に記入させます。その後、表を用いて付箋紙を整理・分析させます。このことにより情報が整理され、問題点が明確になり、改善するための具体的な方策を話し合うことができます。

ポイント

- ・視点を明確に示す。
 - ・表を用いて情報を整理させ、問題点に対応した改善策を話し合わせる。
- 話し合いの内容と流れが見えるようになります。

	よい点	問題点	改善策	重要度
内容	文化財について詳しく調べている	小学生ならではのシンボリックになっていない	再取材して、もっと自分たちが感じたことや考えたことを入れよう。	1
	インタビューや聞き取りで分かったことを中心にまとめている	地域の人の思いが足りない	地域の人の苦労や願いについてインタビューしよう。	2
の表現	見出しが決まってくて分かりやすい	意味の分からない言葉が多い	難しい言葉は説明書こう。	

新学習指導要領では

言語により整理したり分析したりして考え、それをまとめたり表現したりして自分の考えを深める学習活動を重視

- 今回の改訂では、問題の解決や探究的な活動の過程において、**他者と協同して問題を解決しようとする学習活動**や**言語により整理したり分析したりして考え、それをまとめたり表現したりして自分の考えを深める学習活動**を重視しています。

- 本事例「中間発表会」では、「観光マップ」の下書きを改善させ充実させるために、相互評価や外部評価を取り入れ、付箋に書かせた評価内容を、**表を用いて協同で整理・分析**させています。これにより、問題点が明らかになり、対応した改善策について、児童一人一人が主体的にかかわり、自分の意見を出し合うことができます。今後の**活動への見通し**がもて、**新たな追究**につながります。

中学校 総合的な学習の時間の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○ 様々な情報を関連付けて考え、筋道立ててまとめることができる。

思考力、表現力の育成

- 学年 第3学年
- 単元名 「地域の課題を見つけて探究しよう」
- 単元の目標 地域の「ひと・もの・こと」についての探究的な学習を通して、地域社会のすばらしさや問題点、自分とのかかわりなどを学び、探究の過程や課題設定に応じた解決方法を協同的に身に付け、地域の豊かな社会の創造を目指し解決しようとしたり、自分自身の将来のことを考えたりする。

□ 単元の計画 (全35時間)

学習活動	学習活動
研究テーマを決めよう(5) 1 課題の設定 ・ウェビング、グループでの協議、教師との対話を通じて、グループごとに研究テーマを設定する。 例:「ポイ捨てを減らす第一歩」、「福祉って何だろう」、「我がふるさとの文化を伝承する」等 ・学習計画を立てる。	自分の考えを発表しよう(5) 4 まとめ・表現, 1 課題の設定 ・仮説の検証結果をまとめ、報告する。 ・自己評価や相互評価により、問題点を基に改善策を考えたり今後の取組を明らかにしたりする。 例:清掃活動は効果があったが、ポイ捨ての意識はどのように変えていくのか。
的確な情報を集めよう(7) 2 情報の収集 ・研究テーマを踏まえて情報を収集する。 例:ポイ捨ての現状と原因について現地調査とアンケート調査を行う。	地域全体に取組を広げよう(7) 2 情報の収集, 3 整理・分析 ・地域全体の課題として取り組むために、情報を収集・整理し計画を立て、実践する。 例:地域全体のポイ捨てを減らす計画を立て実践する。 ・実践後に取組内容を振り返る。
情報を基に仮説を立て検証しよう(9) 3 整理・分析 ・情報を整理する。例:分布図や円グラフの活用。 ・情報を関係付けて仮説を立てる。 例:「ポイ捨ての多い場所をきれいに掃除して、ごみ箱も置けば、ポイ捨てはなくなるだろう。」	自分の考えをまとめよう(2) 4 まとめ・表現 ・これまでの取組を基に「市への提言書」としてまとめる。 ・学習活動全体を振り返り、自分の将来の生き方や自分と地域とのかかわりについて考えまとめる。

- 本時の目標 情報を関係付けて考え、仮説を立てることができる。
- 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 本時の学習課題をとらえる。	これまで収集した情報を関係付けて考え、仮説を導き出そう。	
2 グループごとに、情報を関係付けて仮説を立てる。	・情報を整理したものを基に、各自が考えたことを出し合い、模造紙に記入させる。 ・考えたことを基に、仮説「○○すれば、■■になるであろう。」という内容に整理させる。	
3 仮説を紹介し合う。	・仮説を設定した理由を述べさせる。 ・仮説と設定の理由のつながりに着目させて、他のグループの仮説を評価させる。	・研究テーマについての地域の課題に関する様々な情報を関係付けて考え、仮説を立てている。〔学習方法〕 (発表内容、行動観察、振り返りの記述内容)
4 仮説を見直す。		
5 振り返りをする。	・「これまで収集した情報を関係付けて仮説を立てることができたか」について振り返りをさせる。	

言語活動の充実

指導のポイント

情報を関係付けて考え、まとめる

個人で考える

■ 収集し整理した情報を、各自が関係付けて考えるようにさせましょう。

各自で、調査1と調査2から明らかになったことを関係付けて考える。
 「調査1の□□と調査2の△△から、・・・ということ考えた。」

集団で考える

■ 模造紙等に各自が考えたことを書かせ、グループ全員が各自の考えを見えるようにさせましょう。

■ 出された考えの中で、問題解決の手立てになる内容に線を引かせ、それらを基に仮説を立てさせましょう。仮説の立て方について、教科の既習内容を関連させましょう。

仮説 ○○ (問題解決の手立て) すれば、■■ (問題解決後の姿) になるであろう。

留意点

これまでに収集した情報(調査1「現場の状況調査」、調査2「アンケート調査」)を基に、本時で考えを明らかにするために、前時では、情報を整理しておく必要があります。教師は、教科の既習内容との関連を図りながら、様々な整理・分析の方法を確認して、収集した情報に適した方法を選ばせ、情報を整理させます。

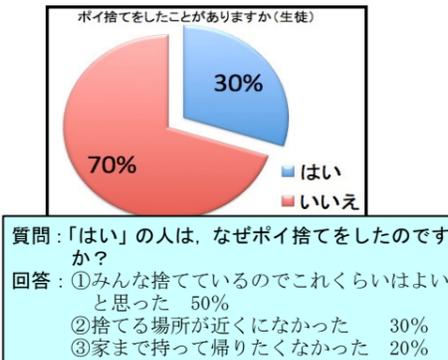
<収集した情報を整理した例>

■ 調査1 (現場の状況調査)・・・分布図や表にして整理



■ 調査2 (アンケート調査)

・・・グラフにして整理、ランキング付



<グループ活動での模造紙の内容例>

○班 研究テーマ「ポイ捨て減らす第一歩」
 「人は、どういう場所にどういう気持ちでごみを捨てるのか」

【調査から考えたこと】

班員A: 調査1のいつもごみが捨てられている「川のそば」と調査2の「みんな捨てているのでこれくらいはよい」から、人は、すでに汚い所では、自分も捨ててよいという気持ちになるのではないかなと思う。

班員B: 調査1の「ごみ箱はない」と調査2の「捨てる場所がない」「持って帰りたくない」から、人は、ごみ箱などの捨てる場所が近くにない場合、ごみを持って帰るのが面倒になり、ポイ捨てをするのではないかな。

班員C: ...

班員D: ...

【○班の仮説】
 ポイ捨ての多い場所をきれいに掃除して、ごみ箱も置けば、この場所でのポイ捨てはなくなるだろう。

新学習指導要領では

言語により整理したり分析したりして考え、それをまとめたり表現したりして自分の考えを深める学習活動を重視

○ 今回の改訂では、問題の解決や探究的な活動の過程において、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や言語により整理したり分析したりして考え、それをまとめたり表現したりして自分の考えを深める学習活動を重視しています。

○ 本事例は、研究テーマに沿って収集した情報を整理・分析して考えたことを材料に、協同で仮説を導き出していく活動です。これにより、論理的に考えたり、表現したりする力が身に付きます。今後、生徒は、自分たちが導き出した仮説を検証するために、主体的に学習活動に取り組んでいきます。

高等学校 総合的な学習の時間 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 発表方法を工夫し、根拠を明らかにして自分の考えを説明することができる。

思考力、判断力、表現力の育成

- 学年 第1学年
- 単元名 「新書」レポート交流
- 本時の目標
 - ・「新書」をレポートの形式でまとめ、発表の仕方を工夫することで、収集した情報をより深く理解することができる。
 - ・「評価表」をもとにしながら、話し合いをすることで、根拠を明らかにしながら自分の考えを説明することができる。
- 学習の流れ（3時間目／全4時間）

《前時までの活動内容》夏休み等の長期休業を利用して、学校が指定した新書に関心のある分野から一冊読み、学習活動2に必要な課題1～課題4（課題1 内容の要約、課題2 感想・疑問、課題3 この本のここがおすすめ！、課題4 ぷち〇〇〇〇クイズ）を踏まえた上で、「新書」レポートを完成している。

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 「新書」レポート交流の確認	・「新書」を読んで学んだことを共有できるよう工夫させる。	
2 指定されたグループ内で各自が作成した「新書」レポートの内容を発表する。	・発表時間を考慮した上で、自分の発表のポイントに軽重をつけ、他の人に分かりやすい発表にさせる。 ・ぷち〇〇〇〇クイズについては、この本から得られた知識をもとに難易度の違うクイズを3問（3択または〇×）作る。	・他者の発表から自分の発表の改善点について考え、発表方法を工夫することができる。 〔活動について思考・表現〕（行動観察、発表、レポート・記録用紙の記述）
3 各グループからレポート部門とクイズ部門の代表者を決定する。	・評価表を書きます。個人別・項目別の3段階評価させ、特によい発表、クイズについて、具体的に理由を書かせる。また、全員の評価をグループ内で提示して、グループ内で話し合い代表者を決定させる。	
4 本時の活動を振り返る。	・グループ代表者をどのようにして決定したか、グループごとに発表させる。 ・本時の学習目標に対する取り組み状況を評価する。 ・次時の「新書」レポート発表会&クイズのルール等を伝える。	

言語活動の充実

指導のポイント

相手を意識した発表方法を工夫させる。

- 学習活動2の新書レポート発表は、「新書」を読んで、何が書いてあったかを相手を意識した上で他の人に分かるようにレポート内容をまとめて発表することが大切です。発表時間が4分の場合、何をどのような順番で発表するかということが重要になってきます。

①内容の要約（1分）、②感想（1分）、③この本のここがおすすめ！（1.5分）、④クイズ(0.5分)の4項目を踏まえて内容を分かりやすく伝えましょう。

工夫

（相手の興味・関心が高いと思われる場合）はじめに、①この本のここがおすすめ！（3.5分）で、内容の要約を含めて、この本で学んだことを説明し、推薦したい部分を強調し、その後、②クイズ(0.5分)を行う。
（相手の興味・関心が低いと思われる場合）はじめに、①クイズ（2分）で関心を高め、その後、②内容の要約を行い、感想をまとめて発表する。（2分）

評価表をもとに話し合いをさせる。

- 「グループ代表を決定する」という話し合いの見通しが持てるように、評価表を活用しましょう。発表するときのポイントだけではなく、グループ代表者の決定方法を発表するときにも役立ちます。

「グループ代表を話し合いで決定しましょう。」

工夫

「評価表をもとにしながら、グループ代表を話し合いで決定しましょう。」

- このような取り組みによって、考えの根拠が明確になるので、代表者を選ぶ話し合い活動が充実します。また、今後、自分が発表するときのポイントも明確になります。

評価項目	レポート作成者
必要な情報が十分に記されている	2・1・0
要約が分かりやすく書かれている	2・1・0
感想・疑問が掘り下げられている	2・1・0
読む人に興味をもたせる工夫がある	2・1・0
クイズで新たな知識が得られた	2・1・0
クイズの出題が工夫されている	2・1・0

新学習指導要領では

他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を重視

- 今回の改訂で、内容の取扱いについての配慮事項において、「問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること」が示されました。
- 本時の学習活動2の「新書」レポートをグループ内で発表する学習を通して、**根拠を明らかにして自分の考えを説明する**ことができるようになります。また、友だちの発表を聞いたり、自分の発表の仕方を工夫したりすることで**自分の考えを深めたり**、協同的に取り組むことの大切さを実感することができます。